

### お知らせ

## 平成28年度地域づくり交流会を開催します。

「平成28年度地域づくり交流会」を以下のとおり開催します。

詳細及び参加申込については、まちづくり推進課 HP に掲載のチラシをご覧ください。

参加申込締切：平成29年1月23日（月）

URL：<http://cms.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/195165.pdf>

### 『平成28年度 地域づくり交流会』

県内各地域で地域づくりに取り組む住民組織や市町村・県の職員等が課題を話し合い、取り組みのアイデア等を考え、今後の地域づくりに活かすために、参加相互の意見交換、交流を行います。

日時：平成29年1月31日（火） 10：30～16：00（開場 10：00）

場所：郡山市総合福祉センター5階集会室（郡山市朝日一丁目29番9号）

主催：福島県

共催：公益財団法人 福島県区画整理協会

協力：福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター

参加対象者：地域づくり団体、商工団体、行政（県、市町村）、まちづくりに興味のある方 等

内容：

#### 第1部 講演会 10：30～11：30

「持続的な住民主体の地域づくりの進め方」

講師：板垣 文彦 氏（公益社団法人中越防災安全推進機構震災アーカイブス・メモリアルセンター長）

#### 第2部 事例発表会 11：30～13：30

「農家民泊による教育旅行と6次化商品開発による地域づくり」

講師：星 利一 氏（南会津町たのせふるさとづくり会会長）

「元気ふくしま地域づくり交流促進事業の取組紹介」（福島県まちづくり推進課）

「地域づくり活動支援事業を活用した地域づくり」（公益財団法人福島県区画整理協会）

#### 第3部 交流会 13：30～16：00

以下の①～⑤のテーマ毎に、県内各地域で地域づくりに取り組む中での事例紹介や課題について話し合い、アドバイザーを交えて今後の取組に参考になるような話し合いをします。

- ①活動の継続（組織運営、地域間交流・連携、情報発信）
- ②若い世代への継承（少子高齢化、こども・若者の参画、後継者育成）
- ③復興まちづくりとコミュニティ再生（地域のつながり強化、住民と行政の協働）
- ④特産品による地域づくり（6次化商品開発、販売、PR）
- ⑤多角的な視点の活用（大学生、地域おこし協力隊との協働）

## 都市再生整備計画事業事例紹介～土湯温泉町地区（福島市）～ 「公衆浴場」の工事安全祈願祭が行われました

平成28年11月29日（火）、福島市土湯温泉の中之湯・富士屋旅館跡地において、公衆浴場施設の工事安全祈願祭が行われました。小林香市長、加藤勝一協議会長、高木克尚市議会議長及び市職員ら約30名が出席しました。

3階建ての建物には、露天風呂付き大浴場・4つの貸切風呂・2室の休憩室などが整備される予定で、平成30年4月オープンをめざします。

かつて土湯温泉には、上之湯、中之湯、下之湯、赤湯と呼ばれた公衆浴場があり土湯の顔として賑わいを見せていました。市内最大規模の「公衆浴場」となる新しい中之湯は、温泉街の新たなランドマークとして賑わい創出に期待がもたれます。

土湯温泉町地区では、平成26年度より都市再生整備計画事業を活用しています。今回工事に着手する公衆浴場のほか、飲食スペースや研修施設を備えた観光交流施設（旧いまずやを活用）、観光交流センター（旧観山荘を活用）など新たな観光拠点を整備し、併せて街なみの修景整備や歩行空間のリニューアルを行うなど、観光地としての魅力向上に向けた取組が行われています。



【公衆浴場完成予想図】

## ひろの防災緑地が供用開始しました

平成28年12月7日（水）に、ひろの防災緑地が供用開始しました。

県では、平成23年3月の東日本大震災による津波被害を受け、浜通り地方の沿岸部10地区で防災緑地の整備を進めており、ひろの防災緑地が供用開始第1号となります。

防災緑地は、津波による浸水被害の軽減や避難時間の確保などの防災機能強化、津波により失われた海岸景観の再生のほか、平常時には自然とのふれあいの場としての利活用が期待されています。

ひろの防災緑地では、平成27年12月に福島県と広野町、ひろの防災緑地サポーターズクラブの3者が協定を締結しており、維持管理やイベントなどにおいて、官民協働で取り組んでいく予定で、今後ひろの防災緑地を拠点とした地域の活性化が期待されています。



【供用開始したひろの防災緑地】

## 第 10 回まち交大賞 あすけこうらんけい 足助香嵐渓地区のまちづくりについて

平成 27 年度の第 10 回まち交大賞に愛知県豊田市の「足助香嵐渓地区」が選ばれましたので、そのまちづくりを紹介します。

まち交大賞（国土交通大臣賞）とは、地域の創意工夫を活かしたまちづくりの取り組みがなされ、都市再生整備計画の策定、事業の実施、事業の評価等において優れた地区で、全国の都市・地域再生のモデルとして特に優秀な地区が 1 地区選定されるものです。

足助地区は、江戸時代中期より尾張・三河と信州・美濃を結ぶ街道「塩の道 中馬街道」の宿場町として栄え、積荷の中継地として重要な役割を果たしました。しかし現在においては、旧足助町の中心市街地の人口減少と高齢化が進み、観光客も減少するなど、まちなかに如何にして賑わいを取り戻すかが課題となっていました。

旧足助町中心市街地人口	昭和 53 年 3,094 人	→	平成 18 年 1,943 人
旧足助町中心市街地高齢化率	平成 2 年 19.4%	→	平成 18 年 34.9%
足助地区の観光客	平成 7 年 205.7 万人	→	平成 18 年 182.4 万人

### ■足助町のまちづくり



足助町の町並

足助町のまちづくりは、旧街道沿いに残る往時の町家など歴史的建造物を残し、景観資源を活かしたまちづくりをしようと、昭和 50 年に有志 30 人による「足助の町並みを守る会」の発足から始まりました。その後、平成 6 年に「足助の街づくりに関する要綱及び規定」を制定、平成 17 年に「足助まちづくり推進協議会」が発足、平成 20 年に「豊田市景観計画」が策定され、平成 23 年 6 月には愛知県初の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されています。現在、足助地区には 216 棟の伝統的建造物があります。

### ■足助香嵐渓地区都市再生整備計画事業（H21～H25）



香嵐渓

旧足助町市街地の入口にある香嵐渓は全国有数の紅葉の名所であり、年間約 150 万人の観光客が訪れていますが、市街地に入り香嵐渓から遠ざかるほど観光客は減少しています。

都市再生整備計画事業では、香嵐渓に訪れた観光客を如何にまちなかに誘導するかをテーマに、以下の事業が実施されました。

#### 【基幹事業】

- 電線地中化 L = 1,790m
- 道路修景整備 L = 1,820m (自然色排水性舗装)
- 橋梁修景整備 2 橋 (中橋、落合橋)
- サイン整備 22 箇所



電線地中化と道路の美化により修景された町並み



高欄が木製化された中橋



木橋風に修景された落合橋



観光案内のサイン



### 【提案事業】

まちなみ整備事業(ファサード整備の補助)  
重要伝統的建造物群保存地区指定に向けた検討・調査  
景観計画・ガイドライン策定調査



ファサード整備された建物

市街地のメイン通りの電線地中化に併せて自然色排水性舗装で美化化され、景観に配慮して道路標識、外側線、横断歩道も除去されました。住民同士が議論し、区画線や道路標識があれば安全といった先入観にとらわれず、まち全体で“交通安全”を考えています。また、ファサード整備により歴史的建造物に合わせて周辺の建物も外観の修景が図られ、まち全体が重要伝統的建造物群保存地区に相応しい良好な景観が形成されています。

その結果、都市再生整備計画事業の事後評価では、目標としていた指標が以下のとおり達成されました。

歩行者数の変化	970人/日	→	2,147人/日 (1,177人UP)
住民の満足度	37.2%	→	51.2% (14%UP)

### コラム

トヨタ自動車本社のある豊田市では、「ミライのフツー」を目指し、環境先進都市として先進的に取り組んでいる低炭素社会の実現に向けたまちづくりが進められています。豊田市に来て一番初めに気がつくことは、街中の至るところに電気自動車・プラグインハイブリット車用の充電スタンドとハーモライドステーションがあること。

ハーモライドとは、一人乗り又は二人乗りの超小型電気自動車(EV)のシェアリングサービスのことであり、その充電ステーションは豊田市内に約50カ所あります。好きな所で乗って、好きな所で返すことができ、まさに未来への先乗りシステムが充実しています。



EV車等の充電スタンド



名鉄豊田市駅周辺



ハーモライドステーション

### 土木部メールマガジン登録受付中!!!

土木部メールマガジンでは、土木部の取組みや情報を定期的に発信しています。最新号のメール配信を希望の方は、メルマガ登録をお願いします。

これまでに配信したメールマガジンについては、土木企画課のホームページ (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/doboku-mm.html>) からご覧いただけます。

メールマガジン(無料)の配信をご希望される方は

【土木部メルマガ希望または、解除】

をお書きのうえ下記アドレスまで

メール送信して下さい。

[doboku\\_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp](mailto:doboku_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp)

土木企画課(システム担当) 024-521-7886



【まちづくり瓦版 発行元】  
福島県土木部まちづくり推進課

TEL 024-521-7511

FAX 024-521-7956

e-mail [machizukuri@pref.fukushima.lg.jp](mailto:machizukuri@pref.fukushima.lg.jp)